

学番	中等 3	新潟県立燕中等教育学校
----	------	-------------

令和 5 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学校運営方針	<p>「地域に立脚しつつ地球的視野で活躍できる人材の育成」</p> <p>(1) 生徒から信頼される指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成 ・明確な目的意識の形成と高い学習意欲・向上心の育成 ・自己理解の深化と意思決定能力の育成 <p>(2) 社会に貢献する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と健やかな身体を育成する教育の推進 ・道徳教育の充実、規範意識の育成 ・ユネスコスクールの理念を踏まえた社会貢献活動の実施 <p>(3) 保護者・地域から信頼され、選ばれる魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、学校関係者評価の実施、学校評議員の活用 ・地域社会の人的物的資源を活用した開かれた学校づくりの推進 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、新しい生活様式の中で海外研修や修学旅行をはじめ、体育祭や文化祭など多くの行事を実施することができたこともあり、概ねA評価であった。 ・各種学校行事をとおして、自己理解や自己分析を深め、6年間の計画的・継続的な進路指導を進めることができた。 ・ICT機器を活用した授業改善を目的とした職員研修の充実を図ることができた。 ・生徒指導研修や授業改善研修をとおして、職員の指導力向上及び意識高揚を進めることができた。 ・各部会、教科、学年等の具体的方策について、生徒の成長が具体的に見えるように工夫した観点別評価を実践することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会、教科、学年等の具体的方策について、昨年度実施した観点別評価の点検及び、生徒の主体的な学びへと導くための取組について引き続き検討を進める。 ・ICT機器を活用して生徒の学力向上と進路希望の実現のために、授業改善をさらに進める。そのために、各種研修や研究会へ積極的に参加する。 ・「生徒指導提要（改訂版）」を踏まえ、人権を尊重し、自主性と自律を促す生徒指導の充実を図るために、各種研修の充実と、学校行事等の目的を整理し、明確にする。 ・働き方改革の実践と教育活動の充実に向けた業務の効率化を進める。 	○学習指導に対する生徒の信頼と安心の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の充実 ・主体的な学びへの工夫等の授業改善 ・ICTの活用
	○生徒、保護者の希望を叶える進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学進学率 50% ・医学部医学科等難関大学合格者 10名
	○生徒の人権を尊重し、自主性と自律を促す生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ励行 ・いじめ見逃しゼロスクール集会 ・生徒の自主的な活動による規範意識の育成 ・中途退学者 0、いじめ見逃し 0、問題行動 0
	○個性、人間性、体力の育成、社会貢献の意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・全校ウォーク、つくば科学の旅、種子島修学旅行、海外研修旅行等、ねらいを意識した体験活動の充実
	○活力ある健全な学校経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の見直しの推進 ・学校業務の再整理と業務平準化の実施

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
教務部 学習指導 に対する 生徒の信頼 と安心の 確立	6年間一貫した教育を 実践・開発する。	6年間一貫した教育目標のもと、地域の特色を活用した魅力ある教育課程を実施する。	A	A	A
		入学当初から大学受験までを見通したシラバスを作成し、学校全体で計画的な学習指導を行う。	A		
		社会に開かれた教育課程の実現に向けて、PTA等と連携しながら、外部の物的・人的リソースを活用する。	B		
	基礎・基本の着実な定着と 学力向上のための諸条件 を整備する。	授業時数を確保する。	A	A	
		指導と評価の一体化に向けて、基礎・基本の定着を見取る評価方法と、評価が生徒の主体的な学習調整につながるような手立てを改善する。	B		
	進路指導部と連携し、前期課程から大学入試までを見据えた取組について、日程調整する。	A			
	授業内容の充実を図る。	授業公開週間を通じて、生徒の主体的な学びを引き出す授業改善を教科横断的に進める。	A	A	
生徒 指導部 自主・自 立を確立 するため の支援・ 指導の充 実	社会規範を理解するとともに、自分の言動に責任をもち、主体的に考え、判断し、行動することができる生徒を育成する。	公共の場におけるマナーや交通ルール、場に応じた服装について年間をとおして指導する。また、全校集会などの折に、学期に1回以上指導する場を設ける。	A	A	A
		マナーの基本としてのあいさつを励行するために、生徒みずから主体的に考え、活動する場を設ける。	A		
		いじめ見逃し0を目指して、生徒みずから主体的に考え、活動する場を設けるとともに、職員の校内研修も拡充する。	A		
	生徒会活動など学校生活の様々な場面で仲間を尊重し、他者に対する想像力をもって行動できる生徒を育成する。	個々が活躍できるような活動の場面を設け、生徒の自己肯定感の涵養に努める。また、事後の評価や振り返りによって学びを深めるとともに次の活動への意欲を喚起する。	A	A	
		生徒会の諸活動では、集団の中で仲間とともに企画・実行し、他者と協力して活動する力を身につける。それとともに、自ら課題を見つけて主体的に解決する能力を育てる。	A		
		縦割り班活動を通じて、集団の一員として行動する中で、他者への想像力や共生の精神を育む。	A		
進路 指導部 生徒の進 路実現に 向けて の、進路 指導の充 実	生徒の進路実現に向けて、 生徒の学力向上に努力する。	共通テスト受験者100%、5(6)-7(8)受験者100%を目指し、校内平均点が全国平均点を上回るような学習指導を行う。	A	A	A
		4・5年生の週末講座等を利用して進研模試の事前事後の指導を年2回行い、生徒に具体的な目標を設定させる。	A		
		6年生において生徒の進路に応じた課外講習を設定し、計画的に実施する。	A		
		前期課程において、全国学力学習状況調査、NRT、学力推移調査を利用し、生徒の学習到達度や学習状況を把握することで学年全体や個々に応じた指導を行う。	A		
		前期課程においてデイリーライフ、スタディプランを利用し、生徒の学習習慣と生活リズムを把握し、個々に応じた指導を行う。	A		

		模試成績についての情報提供を速やかに行い、学年・教科で検討できる環境を整える。	A		
	生徒の進路実現に向け、情報を共有する。	進路指導部会を定期的に行い、情報の交換とノウハウの伝達を密に行い、その内容を教職員で共有できるようにする。	A		A
		学年便りや学年PTAの場で、生徒の学習課題、模試成績、進路情報についての情報共有を保護者に対して行う。	A		
		6年生個々の生徒について、進路志望と模試成績、共通テスト成績について意見交換できる検討会を年2回実施する。また、成果と課題を職員間で共有する機会を設ける。	A		
保健・支援部		心身ともに健康な学校生活を送ることができる。	健康の自己管理能力の向上と、心身の健康の保持増進を図る。	A	
	心身の健康の保持増進と校内安全管理を図る。	心の問題を抱える生徒の早期発見・早期対応に努める。	A		A
		前期課程の学校給食について、食についての理解を深め、食に関する指導の充実を図る。	A		
		安全についての知識・技能を習得し、日常の様々な危険に対して、適切な判断・行動ができるように実践的な態度や能力を育成する。 地震及び火災発生を想定し避難訓練を年1回実施する。 校内の安全管理に留意し、事故やけがの防止に努める。 校舎の安全点検を年2回実施する。	A		A
国語科	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。	【前期生】 ①授業内で生徒同士の対話的な学習や、作文やプレゼンテーションなどの表現の機会を積極的に取り入れることで、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。 ②年3回実施する漢字検定において、各学年で目標級を定めて学習を奨励することで、漢字・語彙力の育成を図る。 ③生徒全員が文芸作品を創作し、大会に出品することをとおして、言語感覚を養う。	A		A
	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	【後期生】 ①授業内で生徒同士の対話的な学習や、作文やプレゼンテーションなどの表現の機会を積極的に取り入れることで、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。 ②漢字・語彙・古典知識等の小テストを行う。 ③小論文模試・小論文講習会を行う。 【6年】 ①放課後講習・長期休暇特別講習・受験直前講習を、年間をとおして実施する。 ②大学入学共通テスト国語（現代文のみ解答を除く）の校内平均得点率が全国平均の1.1倍を超えるよう指導する。	A		A
社会科	社会問題に関心を持ち社会科学的思考力を身につけさせ、問題解決能力の育成を図る。	地歴・公民各教科の繋がりを意識させ、授業において新聞を月1回以上活用して、国内や世界で起きている様々な事象の原因について考察し、グローバルな視点を構築できるようにする。	A		A
	社会科学思考力を育成する。	進路目標実現のために朝テストや放課後補習等を行い、大学入学共通テストや二次試験等に対応できる力を身につけさせるとともに大学入学共通テストでは全国平均点以上を目指す。	A		A

数学科 数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通じて、数学的に考える資質・能力を育成する。	基礎学力の定着を図り大学入試に向けた実力を育成する	少人数クラスのメリットを活かし、きめ細かくわかりやすい授業を行う。	A	A	A
		数学検定において1、2、3学年でそれぞれ5級、4級、3級の取得を目標に据えて受検を勧め、受検率を80%以上にする。	A	A	
		年3回実施する模試にあわせ、既習内容の復習を行い、発展・応用力の育成を図る。	A	A	
		家庭学習の習慣化と授業内容の定着させるために週1回以上適宜課題を課し、提出率80%以上をめざす。	A	A	
理科 自然の事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究する力を育成する。	論理的な思考力に基づき、理科の減少について理解できる力を育成する。	総合的な探究の時間で行う課題研究に、理科として積極的な支援をすることで、課題解決能力の育成を図る。	A	A	A
		実験や演示を取り入れ、興味・関心を引き出し、理解を深める。関連した内容の演習を行い、学習内容の定着を図る。	A	A	
		論理的な思考力の育成の結果として、共通テストや個別入試問題に対応できる学力を養成する。その目安として共通テストが全国平均点を越えるように指導する。	A	A	
英語科 言語能力を育成する。	英語が使える生徒を育成する。	6か年指導計画に基づき段階的指導を行うため、CAN-DOリストによる学習到達目標を明示し、指導・評価を行う。	A	A	A
		I C Tを効果的に活用し、生徒の理解を助ける授業を行う。	A		
	グローバルな視野を育成する。	各学年の表現活動を通して、地域の抱える課題から国際情勢まで、様々な事柄に対して問題意識を持たせ、解決する思考力と表現力を育てる。	A	A	
		海外研修を活用し、授業内容を工夫するとともに、夏季集中プログラムや成果発表会を行う。	A		
音楽科 音楽の聴体験や演奏・表現をしていく中で、感受性を育成していく。	工夫して音楽を表現する力を育成し、作品の魅力を感受する感性を高める。	歌詞の意味や音楽を形づくっている要素を知覚させ、工夫した音楽表現へ結び付ける。	A	A	A
		発声練習や音の読み書きなど、基礎的な練習を毎時間行う。	A		
		各作品を様々な視点（音楽的要素・作曲の背景・作曲者の生涯など）からアプローチし、作品の魅力を感受する能力を高める。	B		
美術科 生活の中で美術的要素に目を向けられる力を育成する。	作品をつくり、鑑賞する面白さを体験させる機会をつくる。	デザイン、色彩、用具の扱いなどの基礎的な力を身に付けさせるための実習を行う。	A	A	A
		作品のアイデアをたくさん出させ、発想力を高める。	A		

保健 体育科 生涯スポーツという概念もと、楽しく、健康に運動に親しむ。	基礎体力の向上を図り、健やかな身体の育成する。	毎時間の学校体操やトレーニングなどで基礎体力の向上に努め、体力テストで全国平均を上回るようにする。	B	A	A
		授業の振り返りシートの活用や体育理論の授業で運動の知識や理解を深める。	A		
		保健の授業を通して健康について知識と理解を深め、自身の生活に生かすことができるようにする。	A		
技術・家庭科 問題解決能力を育成する。	身近な生活の中で生かされる技術を身に付ける。	ものづくりを通して、技能を習得させる。	A	A	A
		快適な生活を送るための意識を高める。	A		
		調理実習を年間4回実施する。	A		
1 学年部 燕中等生として、学習規律を確立させる。	学校生活の基盤となる学習・生活の習慣や態度を身につけ、意欲的に学校生活を送る生徒を育成する。	デイリーライフ等を活用し、適切な学習習慣・生活習慣の確立のための支援を行う。	A	A	A
		生徒同士が良好な関係を築くための活動や支援を行う。 (互いを認め、高め合う集団の育成。不適応や問題行動、悩みを抱える生徒への親身な対応。)	A		
		何事にも前向きで、目標に向かって粘り強く取り組むことのできる生徒を育てる。	B		
		年間の諸活動を通して、社会的視野を広げるとともに、自己理解を深め、進路選択への基盤を作る。	B		
2 学年部 基礎学力の向上とより良い友人関係づくりを図る。	基礎学力の定着を図るとともに、自他の良さを大切にしながら、良好な人間関係やより良い集団を築こうとする態度を育成する。	すべての生徒が学習に向き合えるように個に応じた支援を行うとともに、生徒の学習意欲を高める授業を実践する。	B	A	A
		職場体験学習と修学旅行を軸にして、つながりのあるキャリア教育を実践する。	A		
		生徒が意欲的かつ主体的に諸活動に取り組む態度を育成するための支援を行う。	A		
		挨拶、時間意識、コミュニケーション力を中心とした生徒の社会性の向上を図るための指導を継続的に行う。	A		
3 学年部 進路意識の向上を図る。	意欲的かつ主体的に学習や諸活動に取り組むとともに、将来の生き方や進路に関して現実的に探究する態度を育成する。	生徒が意欲的かつ主体的に諸活動に取り組む態度を育成するための授業実践や支援を行う。	A	A	A
		大学見学を軸として、後期課程に向けて進路意識を高めるための指導を行う。	A		
		前期最高学年としての自覚をもたせ、責任感や社会性等を高めるための指導を行う。	A		
		教育相談や学活、総合などを通じて生徒の学習状況を把握し、基礎学力の定着や学習に対する意識の向上を図る。	A		

4 学年部 後期課程 のスタートをスムーズに行わせる。	生活習慣および学習習慣を確立させ、進路意識の向上を図る。	授業第一を掲げ、基礎学力の充実を目指す。家庭学習のさらなる習慣化を図る。課題の提出を着実に行わせる。	B	A	A
		各種模擬試験や週末講座、長期休業中の講習を活用して、大学入試および共通テストに向けた実践力を育成する。	A		
		手帳を常時活用させ自律的に生活を送るようにさせる。個々の生徒の状況の把握に努める。	A		
		進路講演会の開催や、大学説明会を通して進路意識の向上を図る。教育相談を通して文理選択を支援し、進路目標を明確にさせる。	A		
5 学年部 学力と進路実践能力の向上を図り、主体的に活動する生徒を育成する。	確かな学力の定着と進路実現に向けた実践力を向上させ、集団活動において主体的に活動する生徒を育成する。	授業第一を掲げ、確かな学力の定着と進路実現に向けた実践力を伸長させる。	A	A	A
		見通しをもって主体的に学校生活、課外活動、家庭学習に取り組めるよう、個人手帳を常時活用させる。	B		
		主体的な進路選択、進路実現に向けての計画と実行ができるよう、面談や様々な進路学習の機会を通じて支援する。	A		
		探究活動を通じて、課題を発見し解決していく能力を育成する。課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に着ける。主体的・協働的に取り組む姿勢を育成する。	A		
		学校行事で中心的役割が果たせるよう、リーダーシップと協調性を育成する。	B		
6 学年部 学力を養成し、生き方を主体的に選択させる。	基礎力・実践力ともにそなえた確実な学力を養成する。生き方を主体的に選択し、実現できる人格を育成する。	授業第一を掲げ、基礎学力の定着と学習習慣の充実を図る。	A	A	A
		各種模擬試験や講習を通じて、進学に必要な実践力を養成する。	A		
		自己理解、主体的な進路選択、進路実現に向けての計画と実行ができる人格の育成を目指し、教育相談や進路講演会、小論文指導などの機会を通じて支援する。	A		
		最上級生として学校行事で中心的役割を果たすよう、協調性とリーダーシップの育成を図る。	A		
その他 家庭や地域との連携を図り充実した教育活動を展開する。	情報の積極的な発信を図る。	ホームページの内容を充実させ、月2回以上は更新する。	A	A	A
		学校だよりを毎月1回は発行する。	B		
		学校行事への保護者・地域住民の参加者数が前年度を上回るよう広報活動を積極的に行う。	A		
		家庭や地域と連携し、教員の働き方に対して理解してもらうとともに、教育活動について、保護者や地域の方々の意見を聞く機会を設ける。	A		
	正しい知識に基づき、偏見を排除する精神を養う。（「人権・同和問題についての正しい知識と、差別を許さない信念を育成」）	「生きる」の活用や各教科において同和問題を中核とした人権の学習を行う。（人権教育、同和教育強調週間で「生きる」を用いた授業を1回以上実施する。）	A		
一人一人を尊重する学級経営を推進し、人権意識を高める。教科学習や講演会等を利用し、人権意識を高める。		A			
			総合評価		
			A		

成果	<p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧教育課程が混在している年度であったが、スムーズに実施することができた。 ・授業公開週間をとおして、各教科の授業改善を促す手立てを講じることができた。 ・音楽発表会においては、数年ぶりに保護者の観覧を実現することができた。
	<p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ明けでも、可能な限りの対策を講じながら飛燕祭（体育祭）、秋燕祭（文化祭）や夏季球技大会、全校ウォーク、縦割り班活動によるいじめゼロスクールなどを開催し、生徒の成長・活躍の場を確保することができた。 ・「SNS教育プログラム」や「SOSの出し方に関する授業」を各学年が計画的に実施できるよう準備をした。結果、全学年でスムーズに実施することができた。 ・生徒会誌を発行し、次年度以降も継続できる形に整えた。 ・生徒指導職員研修では、中越地区 いのちとこころの支援センター 専門相談員、上越教育大学講師、下越教育事務所 指導主事、新潟県警 国際・薬物銃器対策課 課長補佐など、専門家の協力を得ながら、効果的に実施することができた。
	<p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部医学科志望者向け講演会や看護医療系志望者向け講演会を実施し、進路に対する意識啓発を促せた。 ・夏期講習・冬期講習の実施目的を職員間で共有し実施することができた。
	<p>【保健・支援部】</p> <p>（環境整備・安全防災）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を実施し、技術員、事務職員の協力で修理の必要な箇所を修繕した。 ・総合防災計画や消防計画、避難経路図などの見直しを行い、現状に合うように改訂した。 ・昨年度の課題を踏まえて避難訓練を実施した。 ・職員対象に避難器具の使い方講習会を実施した。実際の参加は保健・支援部の職員のみであったため、避難器具の使い方説明動画を作成し、職員に紹介した。 ・防災教育実施について年度初めに案内することで、各学年で計画的な実施につながった。 ・清掃計画、分担を基に、日常生活の衛生管理を行った。 <p>（給食）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食だよりをホームページに掲載することで、省資源化につなげた。 ・給食着の持参化に向けて検討した。 <p>（教育相談）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの連絡調整をスムーズに行った。 ・必要な生徒に支援ルームの活用を図った。
	<p>【研究・情報部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のICT端末利用促進のための環境整備を行い、BYODの利用率向上に努めた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間における「つばくろ探究」を4年次、5年次で行い5年生は12月に最終発表会を実施した。 ・県外視察を通じて、先進校の取組を研究することができた。 ・授業改善のための授業アンケートを実施した。
	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かごしま総文2023」「新潟県高等学校弁論大会」「わたしの主張新潟三条地域大会」「宮柵二記念館全国短歌大会」など、作文・スピーチ指導、創作指導に力を入れたことにより、多くの入賞者を出した。 ・漢字検定を積極的に奨励し、語彙力の向上を促した。 ・すべての教員が対話を取り入れた授業を行うことで、多くの生徒が自分の意見を明確に伝える技術を身につけた。 ・国語科におけるICT教育のあり方について検討した。
	<p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・進路と連携して、朝テスト・長期休業中および平日放課後の講習を計画的に実施することができた。 ・ICTを活用し、より効果的な授業を実践することができた。
	<p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・進路と連携して長期休業中および平日の講習を実施できた。 ・ICT機器の活用を取り入れながら計画的に授業を進め、復習や演習の時間を確保することで、生徒たちの数学に対する興味関心を高め、学力の向上を図ることができた。
	<p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・進路と連携して長期休業中および平日の講習を実施した。 ・ICT機器を活用して、学習内容の理解を深めた。 ・グループワークなどでより深い学びができ、全国学力・学習調査の結果にも表れた。
	<p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の重点計画を概ね遂行し、生徒たちの英語学習に対する意欲および学力の向上を図ることができた。 ・海外研修に全員が参加することができ、学年が一丸となって研修及び事後報告会に臨み大きな成果を上げることができた。 ・中堅学年でのリスニング力向上を目指し、新たに3・4学年でスタディサプリを活用したところ、着実に力をつけてきたと思われるため、次年度も継続して活用することとした。 ・実用英語技能検定の受験しやすい環境を整えたことにより、受験者・合格者数が増えた。
	<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で、呼吸法や発声練習をする事により、腹式呼吸が身に付き、歌唱やアルトリコーダーにおいて、ふくよかな声や音色が出せるようになった。
	<p>【美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術の様々な分野の実習を取り上げ、広く美術の世界を体験させることができた。 ・制作の前提となる道具や画材の扱いをきちんと習得させることができた。

	<p>【保健体育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大な事故やケガがなく安全に配慮しながらできた。 ・生徒は楽しくスポーツを行うことができた。
	<p>【技術家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術において昨年までは1学年で作成した作品を2年生で展示したいが、今年度は塗装前の作品を展示することで、今年度の作品を展示することができた。 ・安全に怪我がなく作業ができた。
	<p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくば旅行にかかわってはプロポーザルを行わず、合い見積りのみで旅行社を決定した。企画については学年主任が行った。大きなトラブルはなかったが、施設の予約調整など負担はあった。しかしそのおかげで予算に余裕ができ、例年と比べるといいホテルに宿泊することができた。 ・各活動のレポートのまとめ作業ではタブレットを積極的に活用した。
	<p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習を通して、働くことの意義や喜び、将来の夢について考えることができた。 ・鹿児島・種子島への修学旅行で宇宙・科学への関心を高めることができた。また、民泊を経験したことで、人との関わり方や温かさに触れることができた。 ・積極的にICTの活用を取り入れた授業を行った。また、修学旅行のまとめ作業にiPadを使用し、生徒のICTの活用を進めることができた。 ・GoogleClassroomでの授業配信に努めることができた。
	<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学見学や後期課程への意識付けを通して、進路意識を高めるための指導を実践。 ・丁寧な生徒指導と保護者連絡、職員間のこまめな情報共有。
	<p>【4学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修を全員が無事参加した。異文化理解を深めたり、集団行動を学ぶ貴重な機会となった。成果発表会や報告文集などで成果を発表できた。 ・つばくろ探究活動については、各グループで研究を進め、中間発表を行うことができた。
	<p>【5学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つばくろ探究活動最終発表会において、2年間継続した探究活動の成果を発表し、サステナブル国際会議や燕市つばくろ応援事業などの活動にもつなげることができた。 ・外部大会へ積極的に参加した。(高等学校弁論大会、英語スピーチコンテスト)
	<p>【6学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛燕祭の準備と実施に計画的に取り組み、協調性とリーダーシップを育成できた。 ・授業や講習、模試などの回数もほぼ計画通り確保でき、学力の伸張を果たせた。

学番	中等 3	新潟県立燕中等教育学校
----	------	-------------

令和 5 年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※

令和 5 年度第 2 回学校評議員会・地域の声を聞く会（令和 6 年 2 月 28 日開催）において、学校関係者や地域代表から本校の進学に対する取組と結果や、保護者学校評価結果の内容、本校の生徒の活躍の結果などをもとに、学校の状況について改善したという評価をいただいた。いただいた意見や今後の改善方策とともに以下に示す。

- 1 燕市文化会館で行われた「つばくろ探究活動最終発表会」をはじめ、「Jack&Bettyプロジェクト」への参加、「燕市英語スピーチコンテスト」での入賞、「羽ばたけつばくろ応援事業」でのサイエンス部や探究での取組など、地域の皆さんにオープンとなるイベントで燕中等の生徒の活躍を見せていただき、地域の関心は確実に高まっています。

→地域に開かれた活動の充実について評価をいただくことができた。これからも探究の時間や総合学習等を中心に地域に発信する活動を継続していく。
- 2 生徒アンケートからも地域との関係が効果的であると示され、引き続き地域と共に成長していく教育活動を期待しています。コロナへの対応が終わり、地域企業への職場体験等、校外への活動が増えたと思います。海外研修が再開され、周辺地域の保護者から生徒の活躍が話題にのぼり、学校に対する理解が深まっているものと思う。

→燕市内からの新入生の割合が高く保護者、地域の皆様からの理解が深まっているように感じる。地域の期待も大きく、教育目標である「地域に立脚しつつ地球的視野で活躍できる人材の育成」を目指し、地域の期待に応えられるよう努める。新入生の減少への対策を講じていくため、地域に学校の取組をより知ってもらうよう広報活動に力を入れていく。
- 3 14 期生の進学状況を見ると、先生方が熱心にかつ丁寧に指導されていることがわかる。

職員全員で、生徒の特性を見て丁寧な進路指導をしている結果ではないか。

→生徒一人一人の進路希望が実現できるように、今後も 6 年間を見通した教科指導等を職員全員で取り組んでいく。
- 4 普段から地域の中では電車のマナー等、落ち着きのある生徒たちの良い姿が見られる。これからも地域のリーダーとなる生徒が育まれるようお願いする。

→今後も保護者・地域とともに、安全・安心で信頼される学校づくりを進めていく。生徒が入学して良かったと思える学校となるよう、これからも魅力と活力ある教育活動の推進に努めていく。

※「自己評価の結果の内容が適切かどうか」

「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。」

「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。」

「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」などを評価する。

令和5年度 学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
○学習指導に対する生徒の信頼と安心の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧過程混在の中、計画的に授業内容行い、教育目標に基づき6年間をとおした教育活動でグローバルな人材育成を進めた。また、授業公開週間において授業改善を実施した。 →グローバルな人材育成の視点を全職員で共通理解する校内体制をつくり、指導を推進する。 ・ICT校内研修が行い、各教科で授業実践が進められているが、さらなる活用を推進する。 →生徒用のiPadの活用に向け、アプリケーションについての研修を実施し職員の実践力の向上を図る。 ・探究型学習の推進では「つばくろ探究」が2年目を迎え、総合的な学習の時間との接続を円滑進められるよう成果発表会を実施した。 →3年次からテーマに基づいた総合的な学習の時間を進め、探究型学習の基盤を作る。
○生徒、保護者の希望を叶える進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程では、総合的な学習の時間を中心に進路を考えさせる指導を、後期課程では、年間を通し一人一人の進路実現のための具体的な指導、各種講演会や講習を実施し、明確な目的意識を持たせる。 →今後も、生徒一人一人の目標が達成できるように丁寧に指導し、国公立大学進学率と難関大学及び医学部医学科等合格者数を今後も増加させていく。
○生徒の人権を尊重し、自主性と自律を促す生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や生活習慣に関する指導は、職員が指導方針を共有して学校体制での指導にあたる。 →各学年の生徒指導部が中心となり、全校で共有して指導にあたり、大多数の生徒が正しい生活習慣を身に着けている状況を継続する。 ・生徒会活動を主とした生徒の自主的・自律的な活動をとおし、生徒の成長や活躍の機会の確保に努めた。 →行事や生徒会活動において、生徒による計画の立案や運営の機会を確保していく。 ・中途退学者、いじめ、問題行動を減少させる。 →生徒、保護者に寄り添う姿勢を大切に、関係機関と連携しながら学校全体の組織として対応する。
○個性、人間性、体力の育成、	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標に沿った教育活動を展開することに努め、1年生の「宇宙科学の旅」、2年生の「種子島修学旅行」でのJAXA見学、4年生の「オーストラリア海外研修」での英語研修を実施した。探究活動の見通しを持つために探究活動発表会に3年生から参加した。 →体験学習や探究学習など関連づけながら、本校の教育目標に沿った教育活動を展開し、6年次の「大学受験」等、さらに成果が上げられるように努力していく。 ・グローバルな人材育成のための外部との連携を多くもつ。 →外部の専門機関との連携を強化し、行動できる環境づくりに努める。
○活力ある健全な学校経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や専門機関との連携、学校行事の見直しやICT活用による業務の効率化を推進する。 →行事等の精選を進め、さらなる業務の効率化を図る。 ・年間をとおし研究授業を行い、「知的好奇心を高める活動」を保護者や地域住民に伝えてきた結果、本校の教育活動が地域に受け入れられている。 →各種たよりやホームページを活用し、情報発信に努める。 ・授業公開や研修会や行事を広く地域や周辺の小中学校・高校に発信し、交流を図る。 →地域の関係団体、市や小中学校・高校に働きかけ、一層の相互交流ができる環境づくりに努める。行事や授業を公開し、地域に本校の生徒や教員の指導を見ていただき改善に努める。

